

令和七年度 日高看護専門学校 入学試験問題

「地域枠・社会人」

「現代の国語及び言語文化」

(時間：六十分)

《注意事項》

- 1 試験監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください。
- 2 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。試験監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
- ① 氏名欄に、氏名・フリガナを記入してください。
- ② 番号欄に、右詰め受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしてください。
正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。
- 3 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしてください。
現代の国語及び言語文化の問題は全部で三十七問あります。解答用紙の問一から問三十七までの解答欄を使用してください。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 5 試験終了後に問題冊子を回収しますので持ち帰らないでください。
- 6 問題冊子の所定の欄に受験番号を記入してください。

受 験 番 号

一

次の問いに答えなさい。解答番号は①～⑤。

問一 次の作品の中で、作品の書かれた時代が違うものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は①。

- ① 竹取物語 ② 宇治拾遺物語 ③ 土佐日記 ④ 今昔物語集

問二 次の一節を含む作品の作者を後から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は②。

道がつつら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思つ頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追つて来た。

私は二十歳、高等学校の制帽をかぶり、紺飛羽の着物に袴をはき、学生カバンを肩にかけていた。

- ① 島崎藤村 ② 志賀直哉 ③ 宮澤賢治 ④ 川端康成

問三 次の傍線部の敬語のうち、尊敬語ではないものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は③。

- ① 急な用件のようなので、私がすぐにうかがいます。
② どのような食事をされたいのか確認してまいります。
③ いつか近くに来られたときにはお立ち寄りください。
④ じっくりご覧になつてから選ばれるのがよいでしょう。

問四 「のるかそるか」の勝負をすること」を意味する四字熟語を一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は④。

- ① 毀誉褒貶 ② 虎視眈々 ③ 乾坤一擲 ④ 不撓不屈

問五 【例文】の「さえ」と同じ用法が用いられているものを、後から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は⑤。

【例文】ケガをして歩くことさえできない。

- ① ひどく寒いうえに、風さえも吹き出した。
② 彼は本さえあれば一日中退屈することがない。
③ あと一問さえ合つていれば合格だったのに。
④ 旅行の話は家族にさえまだ話していない。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。 解答番号は 6 ～ 24。

学校で受けた知識教育は、生きる上で必要なことからとは質を異にします。ことに商売の世界では、それがはつきりします。

^A 世界に冠たる企業をつくりあげた松下幸之助にしても本田宗一郎にしても、尋常小学校を出るか出ないかの最終学歴でした。

彼らは、学校で授かった知識はすくなくとも、自分で考える頭がありました。現場で試行サクゴ^aしながら考え、独創的なアイデアを商品として結実させたのです。本来の知性をもっていたというべきでしょう。

知的な活動の根本は、記憶によつて支えられる知識習得ではありません。知識習得にはげむことは、むしろ考える力を低下させるギケン^bさえあります。この事実を、二毛作人生ではしっかり頭に置いておかなくてはなりません。

知識習得が生きる上で血肉となるのは、せいぜい三〇代まででしょう。四〇代、五〇代ともなれば、その知識を土台にして、¹ 独自の知性を発展させていかなくはなりません。それによつて、二毛作人生を花開かせなくてはならないのです。

さらに、六〇代以降の第二の人生を充実させるつもりなら、置き去りにしてきた思考力をすこしでも取り戻す必要があります。それには、自分が受けてきた知識教育の足かせをはずして、自らの頭で考える力をもつことです。

若いころの思考力ともまた異なる、後半生でカクトク^cする新たな独創力です。これこそが、後半生を実り多いものにする「若々しい知性」です。

知識に頼るのではなく、独自の思考力をもつ。それを、日々の思考習慣として身につけていくのは、そうかんたんなことではありません。人生経験が長ければ長いほど、さまざまな知識と情報が頭に染みついて、それが邪魔するからです。

染みついた知識・情報の多くは、他人の思考の結果です。それを、ひと前でさも独自の思考結果のようにいうのは、正直さに欠けます。

なにかの機会にネタばれしてしまえば、バツがわるいのはいうまでもありません。(ア) ばれなくても、思考の物真似ぐせがついてしまうと、自分自身の思考力を低下させてしまいます。このほうが大問題です。

物真似ぐせを防ぐには、ひびろから、世間の常識からつねに一步距離を置くことです。声高に「反常識」などと叫ばないまでも、意識して、常識からすこし離れたところに身を置くだけで、独自の思考をする習慣がつくようになりますはずです。

独自の思考は、人生のギロ^dと思えるような場面で求められることもあります。自分なりに考えぬいた結論をもとに歩みはじめたあと、よい方向に向かうのか、わるいほうに転ずるのか判然としない場合もあります。

しかし、結果には自分で納得がいきます。まわりからどう見られても、動じない強さをもつことができます。もうひとつの自分の生き方を決めるとき、その強さがものをいうのではないかと思います。

若いころの話ですが、まわりの「常識」に背を向けて、ずいぶんと意地を張ったことがあります。英文学の研究者として、留学しないときめたときです。

前述のように、終戦後、世の中は手^Bのひらを返したように英語ブームになりました。これからは英語の時代だ、多くの人がそう言いました。

学校の研究者のあいだでは、留学が当然視されるようになりました。まわりの人たちが次々に留学します。なには、二度目の留学をする者もいます。

そういう連中からは「なぜ留学しないのか」といぶかしがる目で見られたものです。留学にもそれなりの意味があることは分かっていました。しかし、留学をしない人間はダメ人間であるかのように見下す彼らの態度には反発を覚えました。

³ きつぱりと留学しないことを決心したのです。

頭のなかを自分なりにセイリ^eしてみました。

留学しない理由、その一。半年や一年留学したところで、外国文学のいったいなにが分かるというのか。帰ってきてても、イギリス人やアメリカ人と同じような仕事はできない。留学生が現地で研究できるようなことは、日本にいても十分にできる。

その二。そもそも、語学・文学のような人文科学と自然科学では、留学の意味も異なる。自然科学では、国内でも海外でも研究態度に違いはない。しかし、人文科学となると事情が違う。ことに語学研究は、日本にいてこそ外国語だが、その国へいけば国語である。つまり、キョ^fジュウ地によって語学に対する態度が違ってくるのではない。英米人がやらない外国語文学の研究を日本でやることは可能だ。

その三。外国留学の実績は、（イ）「箔付け」ではない。これは、明治以降の外国崇拜思想の名残である。実際、留学帰りの研究者で、見るべき成果をあげていない人間がいくらでもないではないか。

こういう理屈を並べて、留学を常識とする同僚と侃々^{*かんかんがく}諤々の議論をしたこともあります。その結果、わたしには「へそ曲がりの留学嫌い」というレッテルが貼られました。彼らからすれば、わたしの留学不要論は負け犬の遠吠え^cでしかなかったのかもしれませんが。

しかし、それでも、留学嫌いに理はあると思っていました。

『源氏物語』を英訳して欧米に知らしめたアーサー・ウェイリーは、日本に招聘されたとき、「自分の愛する日本の美しさは書物のなかにある」と、ジタイ^gしました。このエピソードに、わたしは感銘を受けていました。

アメリカの文化人類学者、ルース・ベネディクトが戦時中、軍から日本の研究を委嘱されました。彼女は結局、日本を訪れないまま、あの『菊と刀』を著したのです。これにも勇気づけられていました。

終戦の年、アメリカでアカデミー賞を受賞した『我が道を往く』という名画がありました。日本では翌一九四

六年に公開されましたが、わたしはその「わが道を行く」ということが好きでした。

常識に背を向け、独自の考えを押し通そうとすると、まわりからは白い眼で見られ、それでも意地を通せば、人生に大きなエイキョウをおよぼすことがあります。しかし、それが独自の考えである限り、けつして後悔はない。失敗だったのか、そうでなかったのかは、他人から見ればヒョウカはさまざまですが、すくなくとも自分にとっては唯一の道だったのです。

二毛作人生においても、この独自思考の回路はもちつづけるべきではないかと思えます。たとえ、まわり道をたどったとしても、それは「わが道」です。自分が歩んだ道には、自分の目でしか見られないものがあります。それが、新たな思考の種にもなります。

ひとを真似ず、常識に抛らず、自分の思考をもちつづける。これが、いつまでもはたらいってくれる頭脳をもつヒケツでもあると思います。

(外山滋比古『人生二毛作』のすすめ「より」)

*松下幸之助(一八九四～一九八九) 現在のパナソニックホールディングスを築き上げた経営者。

*本田宗一郎(一九〇六～一九九二) 現在の本田技研工業を築き上げた経営者。

*尋常小学校 第二次世界大戦前の小学校の一種。

*二毛作人生 後半生を実り多いものにする人生。

*侃々諤々 議論が盛んなさま。

問一 傍線部 a～j と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。 解答番号は

- | | | | | | | | | |
|-----|-------|------|---|------|----------|---|-------|-----------|
| (6) | (15) | | | | | | | |
| a | サクゴ | (6) | ① | ゴカク | の戦いをする。 | ② | カクゴ | を決める。 |
| b | キケン | (7) | ③ | 要人 | をケイゴする。 | ④ | 友達 | にゴカイされる。 |
| | | | ① | キゲン | 前の世界。 | ② | 明る | いキボウをもつ。 |
| | | | ③ | 成否 | をキグする。 | ④ | 応援団 | のキシユになる。 |
| c | カクトク | (8) | ① | 友達 | とヒカクする。 | ② | 動物 | をホカクする。 |
| | | | ③ | カンカク | をあけて立つ。 | ④ | セイカク | な言葉を使う。 |
| d | キロ | (9) | ① | 道のブン | キ点に至る。 | ② | 城に住む | キゾク。 |
| | | | ③ | テレビで | キジュツを見る。 | ④ | 競馬の | キシユになる。 |
| e | セイリ | (10) | ① | 自分の | セイメイを言う。 | ② | 玩具 | をセイゾウする。 |
| | | | ③ | 深くハン | セイする。 | ④ | グラウンド | にセイレッツする。 |
| f | キョジュウ | (11) | ① | 外出 | をキョカする。 | ② | センキョ | で当選する。 |
| | | | ③ | 親とドウ | キヨする。 | ④ | キョダイ | な隕石が落ちる。 |

g ジタイ

(12)

① 役職をジニンする。

② 幼稚園のジドウと遊ぶ。

h エイキョウ

(13)

① 国を救ったエイユウ。

② 人工エイセイが飛ぶ。

i ヒョウカ

(14)

① センカを逃れる。

② 野菜のカカクが高騰する。

j ヒケツ

(15)

① 旅のヒョウを賄う。

② ヒバンの日に出かける。

③ ヒミツを打ち明ける。

④ 考えをヒテイされる。

問二

空欄ア・イにあてはまる副詞として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解答番

号は (16)・(17)。

ア (16)

① まさか

② もともと

③ あえて

④ たとえ

イ (17)

① とうとう

② しょせん

③ あわや

④ よほど

問三

傍線部 A・B・C のここの意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。解

答番号は (18)・(19)・(20)。

A (18)

① 世界の意見を引率する立場にあるさま

② 世界的に最大の規模を有しているさま

B (19)

① 正反対の様子を見せるように

② 大喜びして歓迎するように

④ 世界的に対抗する勢力を持たないさま

C (20)

① 負けたと知らずに勝ち誇るさま

② 負けた者が陰で悪口を言うさま

④ 負けた勢いで怒り始めるさま

③ 初めての気づいたかのように

④ 本当の思いを隠すように

③ 負けたと知らずに勝ち誇るさま

④ 負けた勢いで怒り始めるさま

問四

傍線部 1 「独自の知性」とあるが、それはどうすることによって得られるか。その説明として最も適切

なものを選択し、番号で答えなさい。解答番号は (21)。

① 学校での知識教育を避け、生きる上で必要とされる知恵を自らの思考力や想像力で生み出すこと。

② 与えられた知識を基に自分流に考え、多くの情報を用いながら自分だけの独創力を発揮すること。

③ 記憶による知識習得に頼るのではなく、自分自身の思考力によって独創的な考えを生み出すこと。

④ 知識も情報も与えられるものは拒否し、他人の思考の結果を参考にしつつ独特な考えを持つこと。

問五 傍線部2「結果には自分で納得がいきます」とあるが、その理由として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。 解答番号は(22)。

- ① まわりからどう見られようが、他の人の考えを真似することはなかったと自信をもてるから。
- ② 結果を事前に予測することはできないので、自分の生き方を考えて決めることはできないから。
- ③ 常識に反するために思考をした結果であり、自分なりの道でしか見られないものがあるから。
- ④ 自分なりに考えぬいた結論に従ったので、自分にとっては唯一の道だったと確信できるから。

問六 傍線部3「きっぱりと留学しないことを決心したのです」とあるが、その理由を説明したものとして最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。 解答番号は(23)。

- ① 外国留学を行った人物を見ても、見るべき成果をあげた例を発見することができず、さらに短い留学期間では望ましい成果を挙げることは到底不可能であることが予想できたから。
- ② 外国留学をすることについて、人文科学とりわけ語学研究をする上での積極的な理由を見出すことができず、むしろ国内に留まって研究を続けることの方に重要な意味を感じたから。
- ③ 外国語文学の研究は日本という外国においてこそ可能であり、該当する本国において外国語として研究をするというのは研究者として矛盾した行為であるということを理解したから。
- ④ 自然科学においては外国の進んだ学問を学ぶ意義があるものの、語学研究においてはそのような事情は存在せず、むしろ日本での研究の方がより進んでいることを実感していたから。

問七 この文章の表現の特徴として、最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。 解答番号は(24)。

- ① 人が若々しい知性を持ち続けることについて、自身の体験を中核としてわかりやすく書いている。
- ② 正しい思考をいつまでも行うことについて、学問的な言葉を多く用いながら論理的に示している。
- ③ 知識教育では思考は育たないことについて、論が次第に発展していくという手法で表している。
- ④ 常識に侵されない思考をすることについて、筆者独特の比喻表現を多用して印象的に述べている。

三 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。 解答番号は (25) ～ (37)。

身につけるまでは苦労は多くとも、ひとたび身につけてしまえば無類の効果を発揮するのが型というものがある。そうでなければ、その型は型として不出来だということだ。優れた型は、一生ものである。その型の技化に費やした反復練習の時間が、何十倍にもなつて生涯に益をもたらすのである。これは、技と言えるだけのものを身につけたことのある人ならば、誰でも経験のあることであろう。

型は、達人が吟味して作り上げたものである。したがって、それを反復練習することは、達人の技の本質をまね、盗むことになる。はじめは型の意味がわからなくとも、型が身についてくるプロセスにおいて、その型に込められた意味が徐々に認識されてくる。型の習得の^aカデⁱイは、まねることから入って、盗む認識力が育っていくプロセスということが出来る。しかも、型とよばれるものは、(ア)をとともなうものであるので、できないということが外部から見ても明確である。わかつているということとできるということは、まったく違うことだ。型の場合は、できなければ意味をなさない。このクリアさが、身体がかかわる活動のよさでもある。

もちろん型は、日本固有のものではない。欧米社会にも型は当然ある。しかし、日本が型の社会だと言われてきたのは、社会の隅々にまで型の意識が広がっていたからである。型にあたる現象があるということ、「型」というコンセプトが社会において最重要のものとしてイチづけられていることは、まったく意味が異なることだ。型というコンセプトを持つことによつて、さまざまに異なる領域間の活動が、^cオウダンⁱ的に結びつけられることになる。このコンセプトがさまざまな経験を結びつける効用には、はかりしれないものがある。

- 10 -

型は、そもそもが教育的な概念である。技術の伝承を目的として作られたのが型だ。したがって、日本が型の社会であつたということは、日本が高度の教育社会であつたことを意味する。型は、たしかに親切な言語による教育ではないが、より本格的な教育システムである。型は、外形的な私たちのことではなく、行動のプログラミングを含んでいる。したがって、習得すべきものをシステムとして捉える視点が、そもそも型にはある。全体を把握し、そのうえで ≪

A

≫のが、型の効用である。やさしい型から順次、難

しい型へと階段を上っていく。こうした上達のヴィジョンを、型はあたえてくれる。型は、闇雲な教育というよりは、逆にシステム全体に対する視野をもたらすものである。

しかも型は、言葉では表現しつくすことの難しい身体の次元での伝承を可能にする。身体の次元は、^{*}暗黙知の次元^dと言ひ換えることもできる。暗黙のうちにわかっていることは、多くの豊かな意味を^dナイズウⁱしている。それをすべて(イ)できないほど、暗黙知の次元は豊かである。私たちが自然に行っているさまざまな活動の根底には暗黙知がある。技の世界においても、自分が完全に意識化しないところでの工夫が重要な役割を担っていることが多い。現在のスポーツ科学や科学技術の分析や認識研究では、この暗黙知の重要性がいよいよ注目されてきている。

「型を通しての伝承」は、暗黙知の次元をいったん明確な身体^{*}の型として結晶化させたいと、身体^{*}の反復練

習を通じて、さらに、それをまた別の身体の暗黙知の次元へと流し込むという高度なシステムだ。活動そのものをまねするということはどこにでもある。しかし、活動そのものではなく、相撲における四股や鉄砲のように、活動を支える本質を一つの型に凝縮させるのは、高度な文化である。一つの身体が持つ暗黙知を、別の身体が持つ暗黙知へと伝承させていくためには、たんなる模倣では高度な内容は伝わらない。そのために型が考案され、錬磨されてきたのである。

型に凝縮された暗黙知を、自分の身体の反復練習を通じて自分の身体に蓄積していく。こうした明確なイメージを持って型の練習を行うとすれば、同じ反復練習をしたとしても雲泥の差が出ることになる。型の意義は、型の持つ威力を明確に認識するか否かで決まってくるのである。そうした意識の持ち方を抜きにして、型を贅美したり否定したりすることは生産的ではない。

なるほど、「型にはまる」という言葉は、否定的な意味で使われることが多い。融通が利かない、あるいは時代の変化に即応していないなどといったニュアンスである。しかし型は本来は、応用のための基本である。その基本の型をしつかりと身につけていることによって、現実のさまざまな状況のヴァリエーションに（ウ）に対応することができるようになることが、型のねらいである。したがって、いざというときに融通が利かないというのは、型の本来の姿ではない。実体的なかたちを模倣するだけでは、型を身につけているとはいいがたい。

型を自分の技として身につけた場合には、自分なりのアレンジが大幅に可能になる。型が身につくという段階で、自分の身体の特徴に合わせて若干のアレンジが加えられているのが、むしろ普通だ。同じ型を二人が習得したとしても、まったく同じ動きになるということは必ずしもない。各人の身体に蓄積している（エ）が、型をとりいれていくにさいして微妙なアレンジを加えるからである。自分の身体に根づいたものでなければ、本当に役に立つ技とはならない。

凝り固まって「融通の利かない」動きに陥らないためには、まねる盗む力が必要になるのである。技を盗む意識を持たずに、言われた型だけをなぞるようにまねしていると、表面のかたちだけを模倣することにしかならない。型の最大の機能は、自己との対話である。型という基準を自己の内部に持つことによって、そのいわば

《 B 》 求める自分と現状の自分とのズレが、対話のエネルギーになる。こうした自己との対話の意識は、技を型から盗むという意識に支えられている。技への鮮明な意識を持たずに、かたちを模倣しているだけでは、自分流のアレンジを後から加えることはできない。「型（技）を自分のものにする」ためには、技を盗む鮮明な意識が必要なのである。

まねる盗む力を磨いていると、上手な人からヒントを多く得ることができる。型が現実に対応しきれなくなつた場合でも、モハンとなるトップランナーの技の本質を見抜いて、自分が身につけてきた技にアレンジを加えていくことができる。

（齋藤孝「子どもに伝えたい〈三つの力〉」より）

*暗黙知 経験的に知っており、言葉では簡単に説明できない知識。

*四股や鉄砲 相撲での動作の種類。

問一 傍線部 a～e と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は

(25) (29)。

a カ|テ|イ

(25)

① カ|コを振り返る。

② カ|ジを未然に防ぐ。

b イ|チ

(26)

① イ|チヨウの薬を飲む。

② レ|ースのジュン|イ。

c オウ|ダン|

(27)

① ダ|ンボウをつける。

② 先生とダ|ンワする。

d ナイ|ゾウ|

(28)

① 公園にリツゾウ|がある。

② ゴウ|トウ品を送る。

e モ|ハン|

(29)

① 試験のハ|ンイを聞く。

② コ|ハンにたたずむ家。

③ ハ|ンガを作る。

④ ハ|ンニンを追い詰める。

問二 空欄ア・イ・ウ・エにあてはまる語として最も適切なものを次から選び、それぞれ番号で答えなさい。

解答番号は (30) (33)。

ア (30)

① 身体|の活動

② 外部|の判定

③ 運動|の連続

④ 意識|の変化

イ (31)

① 抽象|化

② 透明|化

③ 言語|化

④ 流動|化

ウ (32)

① 用意|周到

② 一心|不乱

③ 支離|滅裂

④ 当意|即妙

エ (33)

① 疲労|や病氣

② 特性|や習慣

③ 知識|や感覚

④ 技術|や見識

問三 空欄 A・B にあてはまる内容として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。解答番号は (34)。

(35)。

A (34)

① 上達|への道を最大限加速してくれる

② 上達|しない時にもフォローしてくれる

③ 上達|のプロセスを見渡すことができる

④ 上達|すること以外の目的も得られる

B (35)

① 定点|に戻ることによって、型を再び学び直すことができる

② 定点|からの違いにより、自分なりの新しい型を作り出せる

③ 定点|を確認することで、自分の力量を測ることができる

④ 定点|とのズレを通して、現在の自分を測ることができる

問四 傍線部1「型の持つ威力を明確に認識するか否か」とあるが、その「威力」の内容として最も適切なものを

を次から選び、番号で答えなさい。解答番号は(36)。

- ① 身体に同じ反復練習をさせることで、何も考えなくても求められる動きをすることができる。
- ② ごく一般的と言える動きを、非常に高度なレベルである動きにまで発展させることができる。
- ③ 言葉では表現できない感覚の世界で行われる動きを、別の身体に移し替えることができる。
- ④ ある世代が行ってみせた動きを幾世代にも渡って、変わることなく伝えていくことができる。

問五 次の文を読んで、本文の内容とは合致しないものを一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(37)。

- ① いったん身につけることができた型は終生にわたって忘れることがなく、多くの益をもたらす。
- ② 欧米社会でも型は存在するが、日本のように異なる領域間を超えるようなことは見られない。
- ③ 日本は古くから高度な教育社会であり、システム全体を見渡せる型を伝えることが続けられた。
- ④ 型は基本であるが、きちんと身につけることによってさまざまな状況に対応できるものになれる。